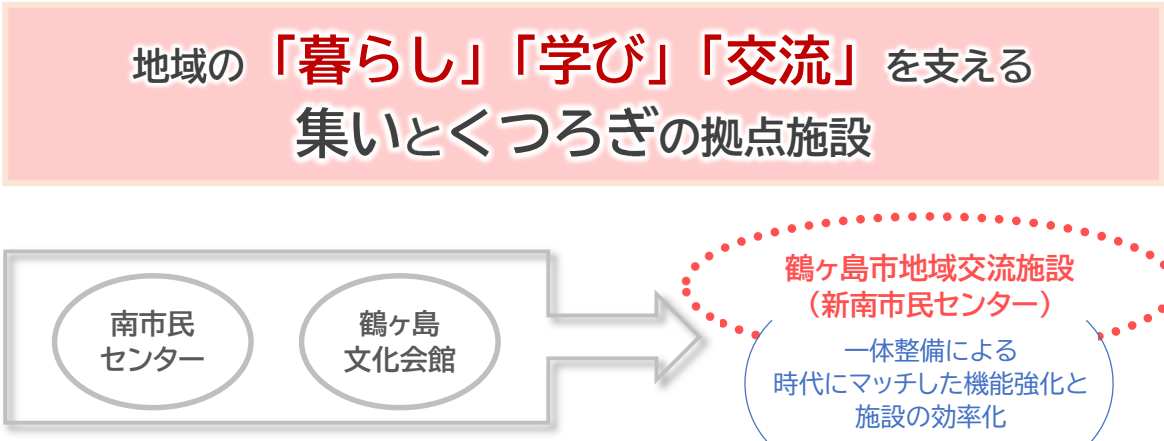


(仮称) 鶴ヶ島市地域交流施設整備基本計画 [概要版]

(仮称) 鶴ヶ島市地域交流施設の整備計画

(1) 将来像 (施設整備のコンセプト)



本施設 ((仮称) 鶴ヶ島市地域交流施設) の整備計画は、南市民センターを鶴ヶ島文化会館の跡地に移転し、地域の拠点施設として再整備するものです。

市民センターとしての機能強化、施設の効率的な維持管理を図り、これまで以上に、地域の誰もが立ち寄りやすく、一人ひとりの学びや人々の交流の場となる身近な地域コミュニティの拠点施設として再生を図っていきます。

(2) 整備方針

本施設 ((仮称) 鶴ヶ島市地域交流施設) の整備方針については以下のとおりです。

- ① 学び・活動・交流がしやすい施設
- ② 誰もが安全に・安心して利用しやすい施設
- ③ 開放的で居心地がよい施設
- ④ 地域の賑わいを生み出す施設
- ⑤ 多種多様な利用に対応できる柔軟性の高い施設

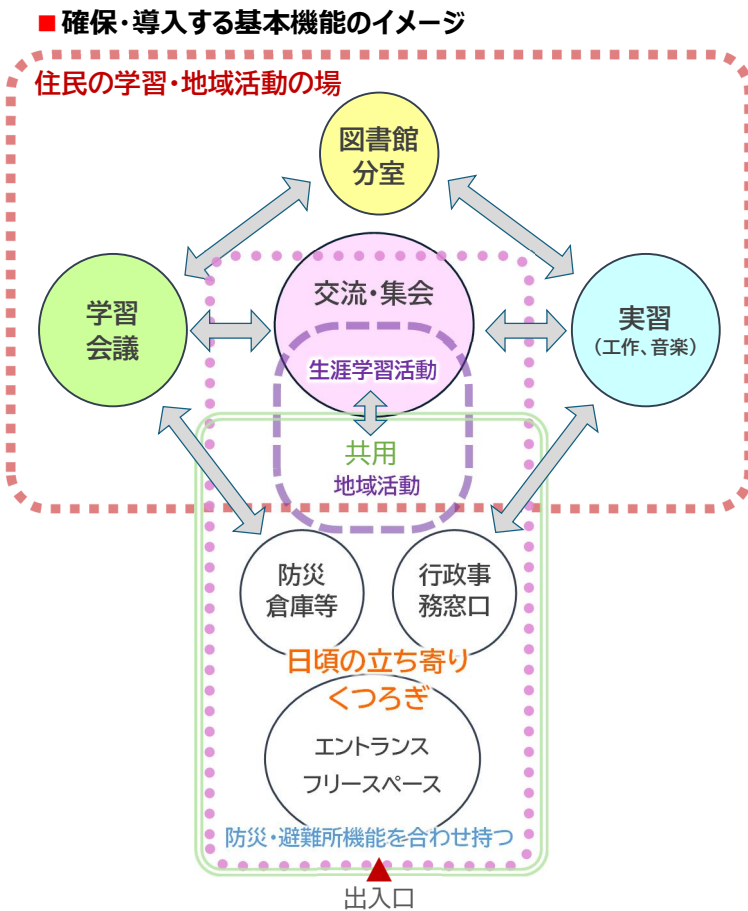
(3) 確保・導入機能

[基本方向]

「生涯学習」、「交流・集会」、「図書館分室」、「行政窓口・市民活動支援」、「その他(防災等)」の5つの観点から居心地のよい地域の拠点として整備を図ります。

① 生涯学習機能

- ・分割利用ができる使い勝手のよい諸室
- ・音楽活動等に対応する諸室、設備機器の整備



② 交流・集会機能

- ・地域の各種集会や式典・発表会、軽運動等ができる多目的ホール
- ・くつろぎ、歓談、交流を生むエントランスやフリースペース
- ・調理や喫茶を気軽に楽しめる開放性の高いコーナー

③ 図書館分室機能

- ・ICT活用によるスマート図書館分室 (中央図書館と6分室の図書館ネットワークの構築、蔵書検索、予約、貸出、返却等のサービス拡充)
- ・エントランスやフリースペースに読書・学習スペース

④ 行政窓口・市民活動支援機能

- ・気軽に立ち寄ることができる行政窓口
- ・関係機関への繋ぎや情報提供などの相談機能
- ・地域活動団体等が利用しやすい印刷室等

⑤ その他 (防災機能等)

- ・避難所機能も考慮した多目的ホールやエントランス
- ・施設内への防災備蓄倉庫設置
- ・ユニバーサルデザイン採用の多機能トイレ、授乳室
- ・屋外活動空間、公共交通機関との連携、安全性を確保した駐車場

(4) 施設と諸室の規模

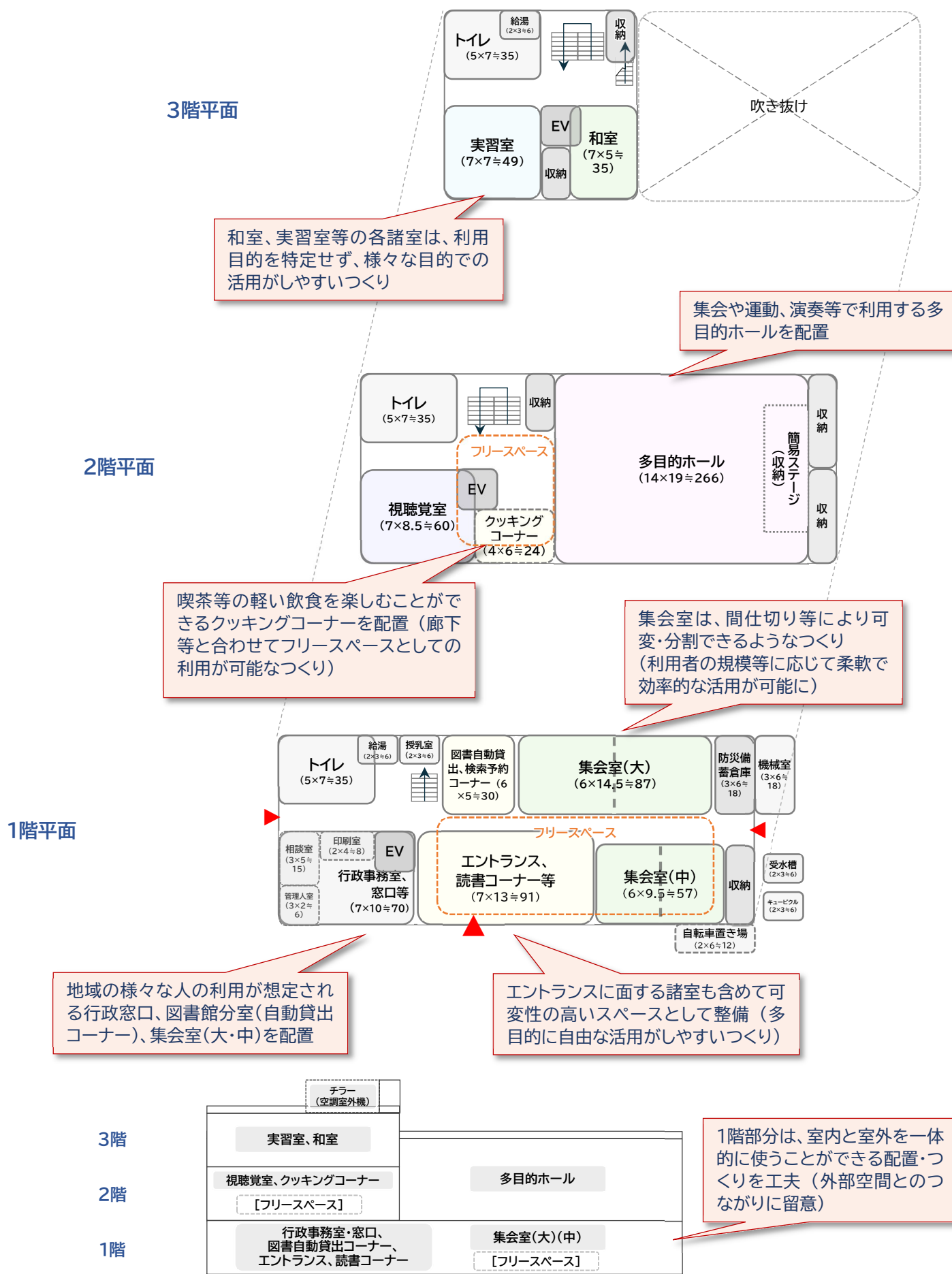
[施設全体規模の考え方]

南市民センターと鶴ヶ島文化会館の諸室を整理し、現在の南市民センターと同等の機能確保を図ります。目安としては、現在の南市民センターの延べ面積 約 1,500 ㎡から、図書館分室相当分を引いた約 1,350 ㎡を基本に検討を進めます。

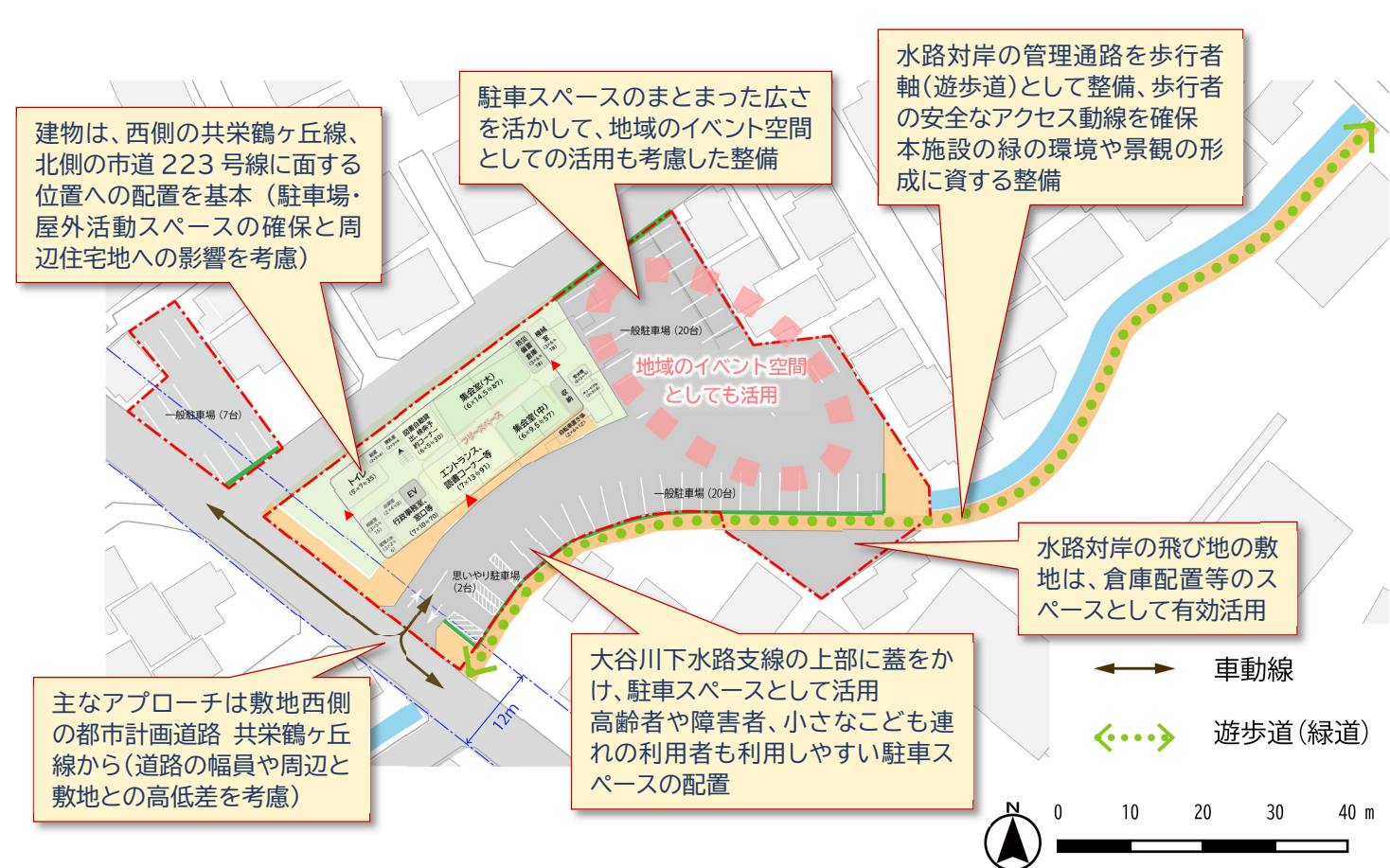
■ 諸室の想定規模

諸室	想定面積	備考
多目的ホール	約 300 ㎡	アリーナ 約 260 ㎡、可動式舞台、ホール用収納を含む
集会室	約 140 ㎡	大(85 ㎡)・中(55 ㎡)の2種類、それぞれ2分割利用が可
視聴覚室	約 60 ㎡	集会室としての活用にも対応
実習室	約 50 ㎡	
和室	約 35 ㎡	
クッキングコーナー	約 25 ㎡	施設利用者の喫茶や打合せコーナー等としての活用
図書館分室	約 30 ㎡	自動貸出コーナー、検索予約コーナー等
エントランス (1 階)	約 90 ㎡	読書・学習コーナー、歓談スペース等
フリースペース (2 階)	約 30 ㎡	クッキングコーナーとホール入口との一体的な利用
行政窓口、市民活動支援	約 70 ㎡	相談室(15 ㎡)、印刷室(8 ㎡)、管理入室(6 ㎡)を含む
その他共有部	約 340 ㎡	トイレ、廊下、エレベーター、給湯室、授乳室 等 (各機能の占有面積の 40%として想定)
各収納スペース	約 100 ㎡	
機械室	約 30 ㎡	チラー (空調室外機) は屋上に設置
防災備蓄倉庫	約 20 ㎡	
延べ面積の想定規模	約 1,320 ㎡	
駐車場、屋外活動スペース	約 1,610 ㎡	想定駐車台数 約 49 台 / 敷地東側は屋外活動スペースとしても活用
緑道 (水路沿い遊歩道)	約 120m	水路沿い計画敷地の対岸側

(5) 想定諸室の構成・配置案



(6) 施設の配置（敷地の使い方）案



(7) 配慮事項

①ユニバーサルデザイン、バリアフリー

- ・誰にとっても使いやすく、分かりやすい施設となるよう配慮した設計
- ・身体的・心理的な障壁や障害物を最小限に抑える施設（広い通路、バリアフリースイッチ等）

②安全性

- ・歩車分離を図り、利用者にとって安全な外部動線を検討
- ・死角の少ない、施設全体の見通しがよい平面計画

③環境共生（省エネルギー）

- ・ZEB※1対応の整備、エネルギー効率の高い設備や再生可能エネルギーの活用

④設備等

- ・安全性、信頼性が高く、機器更新やメンテナンスが容易な設備
- ・ランニングコストの低減に配慮した方式や機器の選定（空調設備等）
- ・社会・経済ニーズの変化に対応（非構造部分はリフォームしやすい工法を見据える等）

⑤周辺環境

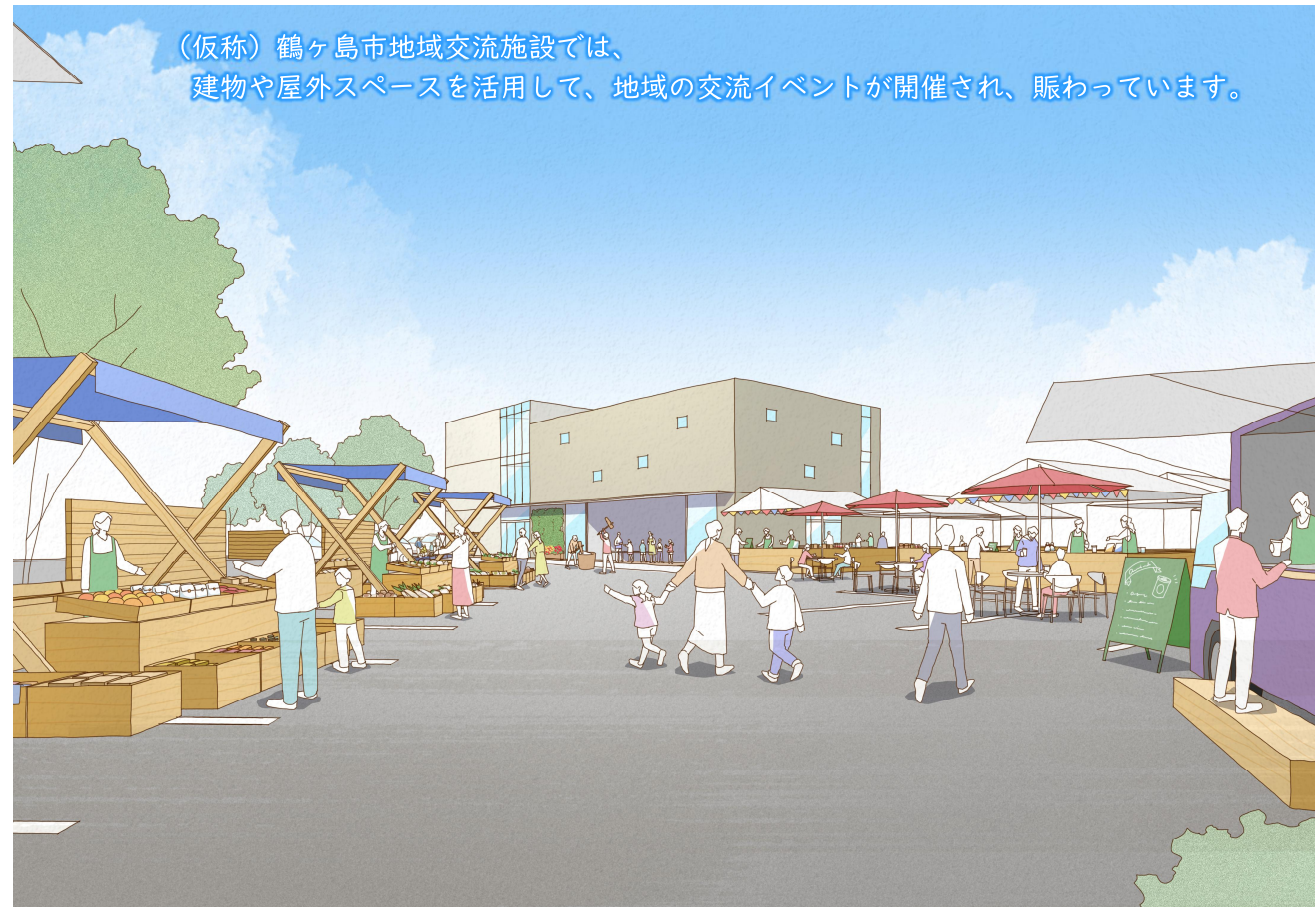
- ・周辺に与える影響への配慮（日照や圧迫感、騒音、駐車場の排気ガス等）
- ・景観や街並みとの調和への配慮（建物のデザイン、駐車場や水路沿い遊歩道の外部空間等）

⑥アクセス

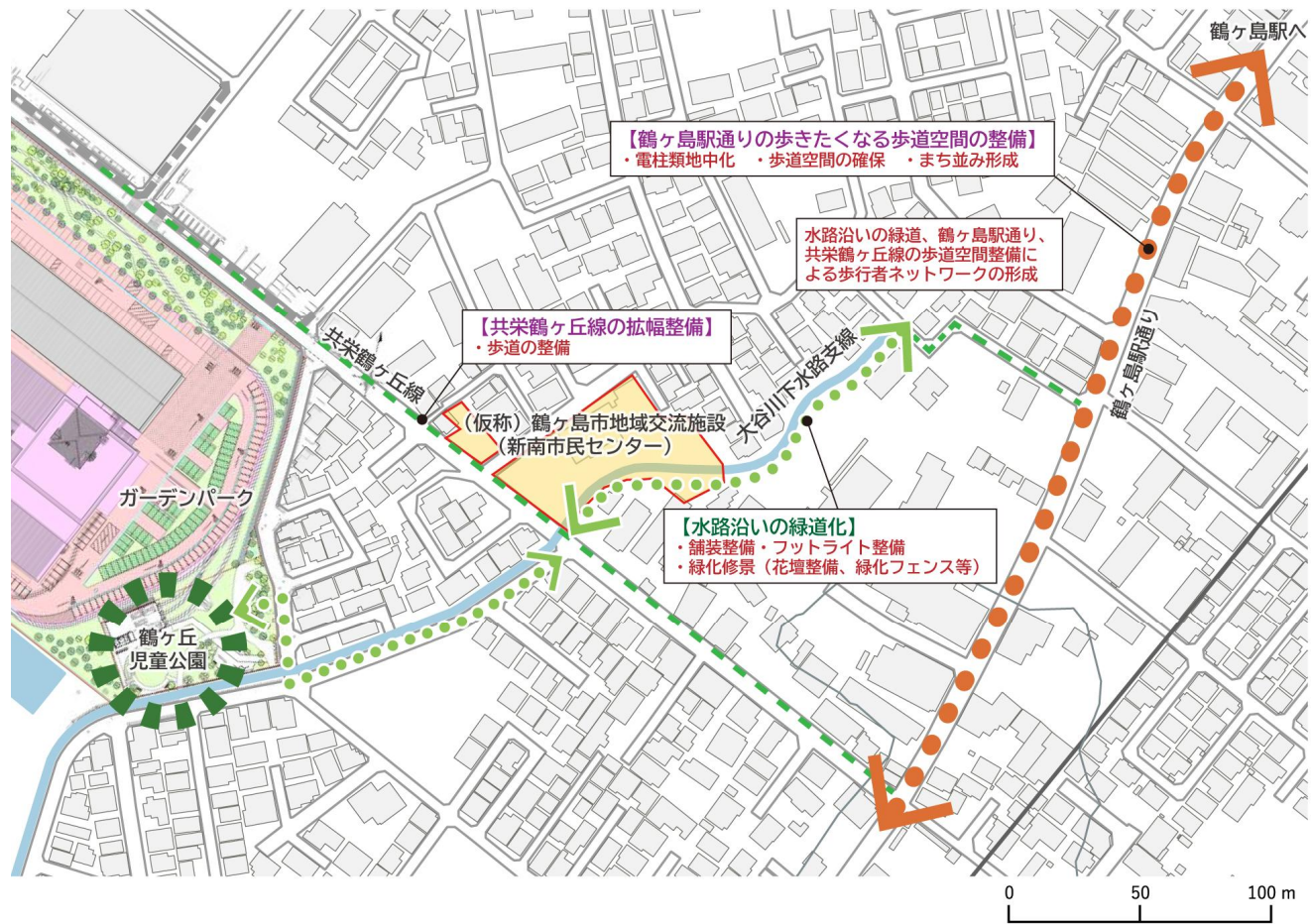
- ・徒歩圏域外の方や車での移動が困難な方も施設を利用できるよう、つるワゴン等でのアクセスを確保

※1ZEB(Net Zero Energy Building)：快適な室内環境を実現しながら消費するエネルギーをゼロにすることを旨とした建物（ゼブ／ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

(8) 整備イメージ



歩行者ネットワーク形成案



(仮称) 鶴ヶ島市地域交流施設の事業計画

(1) 概算事業費

本施設整備の概算事業費（税込）を、以下に整理します。なお、これは施設整備にかかる費用のみを示しており、維持管理経費や運営経費等は含まれていません。

また、以下の概算事業費は、他施設の事例や市の実績等を参考に試算したものであり、今後の地質調査結果や資材・労務費の価格変動などにより、計画の一部変更や事業費が変動する可能性があります。

項 目	概算事業費（百万円）
既存建物解体費（解体設計費を含む）	30
地質調査、測量費	10
設計・監理費（建築・外構の基本設計及び実施設計費、監理費）	76
建設工事費	743
外構工事費（駐車場整備、敷地内排水溝、建物周辺緑地等） ※飛地のアスファルト舗装等も含む	36
水路改修整備費 ※水路改修詳細設計費を含む	69
水路沿い緑道整備費 ※緑道実施設計費を含む	18
什器・備品費	30
合 計	1,012

(2) 事業スケジュール

今年度（令和6年度）の「基本計画」を踏まえ、令和7年度に具体的な設計の段階「基本設計」、令和8年度にさらに詳細な設計の段階「詳細設計」、令和9～10年度に「土木工事」、「建設工事」を行う予定です。

各段階において、地域や関係団体等への周知・情報共有を図りながら進めます。

業務内容	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
測量						供用開始
用地測量、排水調査等						
解体工事						
解体工事設計						
解体工事						
土木工事						
設計（基本・詳細）						
水路工事、造成工事						
建築工事						
設計（基本・詳細）						